

学友報知

デジタル三月号

発行所
群馬県太田市八幡町16-7
県立太田女子高等学校
新聞部
電話(太田)(22)6651番

桐生の森林に新しい価値を

桐生市にある合同会社バリユー・フォレストの代表社員である武井沙織氏にお話をうかがった。



《武井沙織氏 略歴》

- ・昭和53年生まれ。群馬県桐生市立西小学校出身。群馬県立前橋女子高等学校卒業、岩手大農学部農林水産学科に進学。
- ・大学卒業後は青年海外協力隊に応募し、中米のニカラグアで2年間暮らす。
- ・帰国後、一般社団法人海外林業コンサルタンツ協会に入社。パキスタン、ケニア、ルワンダ、中国、フィリピン、イラン、マラウイ、モンゴル等で専門家として仕事に勤しむ。
- ・2021年に独立し、合同会社バリユー・フォレストを設立。

★大学卒業まで
幼少時は山の近くで育ち、近所の小川で遊ぶこともありました。大学は農学部を選びました。実学は社会に運動して学問が変わってゆく部分があり、学科名も変わってゆきます。かつて日本で盛んだった林業が衰退するのに合わせ、他大学も林学科という名前をどんどん変えていった狭間の時代でした。大学を卒業する頃は就職の大氷河期時代で、就職先がほとんどないという状態でした。その頃大きな話題だったのは、アメリカで起きた

9・11の同時多発テロと、バリーマンの遺跡がタリバンによって破壊されたこと。世界ではこんなことが起きていたのかと思いましたが、大学卒業後は桐生の実家に戻り、海外に興味があったことから、青年海外協力隊に応募しました。

★青年海外協力隊の経験
ニカラグアでの活動
ニカラグアは中米にある国です。ニカラグアは日本から遠いと思うのですが、狂牛病が騒ぎになった時期は、ニカラグアで

は狂牛病が流行していませんでした。牛タンを日本に輸出していたこともあったのですが、そこで2年間生活し、日本の良さも悪さも分かったように思いました。

青年海外協力隊として任地に配属された日本人は、私で4代目。1代目から3代目までの日本人は、私で4代目の人が大好きなフリーの方と市内緑化を行ったり、改良かまどの普及をしたりもしていました。この豆の栽培のために、薪で煮炊きするの人は、日本人は、私で4代目の人が大好きなフリーの方と市内緑化を行ったり、改良かまどの普及をしたりもしていました。

★一般社団法人海外林業コンサルタンツ協会での経験
ニカラグアから帰国し、海外での仕事をしたいと考えていたところ、大学の先輩の声を掛けにより入社の声掛けにより入社が決まりました。JICAの自然環境保全の活動として、開発途上国内などで植林だけでなく環境保全に関する様々な支援事業などを行いました。林野庁のプロジェクトファインディングという、日本の技術

を海外で活用するため、プロジェクトを見ようという料理講習会もしました。アメリカの Peace Corps (注)アメリカの青年海外協力隊のようなものが実施している環境教育や、JICA (注)独立行政法人国際協力機構。日本の政府開発援助を一元的に開発途上国に実施する機関)のプロジェクトの見学もさせてもらい、積極的に支援について勉強しました。

国際協力コンサルタンツという仕事は、現地に行く前に情報収集をしっかり行うことが重要です。国家の面積、人口、1人あたりのGDP、主要産業、気候や降水量など、そういう指標を見ながら現地に入ります。

モンゴルの国土は日本の4倍くらいなのに人口は340万しかいません。そして首都のウランバートルに人口が集中しています。国土は放牧地が8割近くあり、降水量は少ないです(注:年間1600mmであるのに対して、モンゴルは4000mmで、砂漠地帯は2000mm以下)。北の方に行くと森林があるけれど、南部にむけて砂漠になっていきます。山羊や羊を放牧しています。夏は毛刈りをして、冬は現地に行けないくらい寒いんです。ゲル(注:モンゴルの遊牧民が暮らす移動式住居)の中で調査をしました。貧しい国というわけではない、観光客も増えていますが、遊牧民は持っている。過放牧による草地の荒廃が問題で、モンゴルの少ない降水量でも生える植物を植えるを試みしました。カナガラという、2mくらい

の株立ちするような灌木を植林したら、家畜の飼料にしたり、うかというプロジェクトです。粒状のパレットに加工することも検討していました。マラウイは私の渡航した国の中で最貧国でした。乾季は長い



フリホーレス畑 (ニカラグア)



NGO との市内緑化 (ニカラグア)



ゲル内での調査 (モンゴル)

ですが、雨季には結構降る(注:年間降水量は800mm)から高い木もあります。でも、大量に伐採してしまう人がいます。首都なのに炭で料理していました。JICAのプロジェクトは国と国との契約で実施するから大規模な取り組みができます。まず広域での森林の調査をし、実際にどういう活動が必要かを個別の専門家が現場で技術協力のプロジェクトをコンサルタンツが継続してつくり出します。プロジェクトを普及させるために、有名な現地のアーティストの方にテーマソングを作ってもらったり、ロゴや映像を作成したり、テレビやラジオで広報活動をしました。ただ森林を植えるだけではなく、蜂蜜づくりもしました。1年で取れるから喜ばれるのです。違法に炭作りをする人は武器を持っていて、軍隊



ナラ林の間を羊、山羊が歩いた跡が見える（イラン）

にお願ひして取り締まりをしてもらいました。炭を作る窯を作り、そこで炭をつくれれば合法にしたりもしました。

イランは地中海性気候で、冬は雪が降りますが、夏は雨が降らず乾燥しています。公用語はペルシャ語で、国の言語をしっかりと持っています。山羊や羊の放牧をし、森林には灌木が多いです。プロジェクトは、国レベル、州レベル、町村レベル、住民レベルなどで成果を求められま

自分や周りの人の生活と人生を優先する場が多かったです。仕事でも、子供が遊ぶ場所、熱したるすべく山の土が流れてしまいい止めるための対策を考へるのです。野生のセロリみたいな、日

3ヶ月滞在し、2週間帰国するといったサイクルで仕事を

いました。イランの同僚には仕事ばかりしている日本人はおかしいと言われたこともあります。現地ではトップダウンで行政を実施していましたが、なるべく住民参加型になるような努力をしました。異文化に入ってゆくわけだから、様々な国で彼らのタブーに触れてしまわないように気を遣い、現地の人に任せる部分もありました。外交上の問題でプロジェクトが変更になったり中断したりすることもありました。

イランには10年以上関わりましたが、コロナ禍でイランにはいられなくなり、リモートワークで今後の生活や仕事について考えるようになりました。日本の地方にも課題が山積している



衣装が美しい遊牧民のパフティヤーリ族（イラン）

イランには10年以上関わりましたが、コロナ禍でイランにはいられなくなり、リモートワークで今後の生活や仕事について考えるようになりました。日本の地方にも課題が山積している



女性によるマイクロクレジット活動（イラン）

★合同会社バリユー・フォレストの設立

海外に行つて思ったのは、人も資源で、人口が多い方がやっぱり国の力が強いのかなということ。日本は人口が多いです。日本の森林では中山間地域（注：平野の周辺部から山間部に至る、平坦な耕地が少ない土地）が一番多く、国土の約7割を占めています。先進国の

でも森林は多い方面です。木の種類が多いのはスギやヒノキです。中山間地域というのは、森林の多面的機能の発揮に重要な役割を負う地域です。景観も美しく文化や歴史も豊かです。現存している豊かな山村資源を活かしていきたくありません。梅田5丁目という場所が平安時代にも人が住んでいた土地です。現在は過疎高齢化が進んでいる現状にあり

では、森林をどのように活用するのが良いでしょうか。木材の出す努力が必要になります。価格は昭和55年がピークでその後どんどん落ちていきます。2022年はコロナ禍でウッドショック（注：ウツドの高騰）がありましたがそれは例外的なことでこの先いつし、新しい時代や様々回復するのは分かんな地域状況に合いません。現在は、木た森林の価値を位置材よりも趣味との関わりで経済効果はあうと思いを込めました。例えばトレッキングやキャンプ、森林セラピー

中にも森林は多い方面です。木の種類が多いのはスギやヒノキです。中山間地域というのは、森林の多面的機能の発揮に重要な役割を負う地域です。景観も美しく文化や歴史も豊かです。現存している豊かな山村資源を活かしていきたくありません。梅田5丁目という場所が平安時代にも人が住んでいた土地です。現在は過疎高齢化が進んでいる現状にあり

緒に取り組んでいませ。お茶、柚子、山椒を資源として利用しています。それを活用する企業を増やしているところ。マーケティングと営業、山椒を食べに来る鹿との戦いなどが、今の課題です。今まで古民家だったところを事務所にしてもらい、一緒に活動する仲間たちが増えてきています。地域の人たちとの縁を大事にし、地域に根付いた会社になりたいです。山村作業は生涯現役が可能で、多様な世代が関わりたいききと活躍できるコミュニティが求められます。流行や時勢はうつろいますが、時代は左右されませんが、必要なのが森林にはあるから、やりがいがあります。課題はたくさんありますが、大切なのは、論理的に考えること、誰かが情熱を持って動かしていくということ、本当の解決につながるかと実感しています。

今までの人生でいろいろな経験をしてきました。無駄はないと感じていますが、大学卒業の頃は就職氷河期で、なぜ就職できないのかと悩んだりもしましたが、今になってみると一般の企業に就職しなくて良かったです。海外に行つてみ

本の常識は世界の常識ではないということ。常識というものは、その場・その文化でしか通じないものと分かりました。森林は気候や土壌、地形で異なることや、木材だけではない林業の可能性に気づくことができた。海外では終身雇用ではなく、ジョブ型雇用も多いです。多様な人生の考え方に会えて、生活と仕事の関係は柔軟で良いのだと思いました。様々な国の多様な森林に触れ、その国の事情を肌で感じることで、固定概念から解放されて、周りを理解し、信じて待つことが重要だと学びました。



山村の豊かな自然・水（桐生市梅田）



梅田茶生産組合との協働による和紅茶の製造



柚子を使った商品の開発（柚子うどん）

新聞部 部員募集中！！

文系・理系、学年問いません！！